

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：32622

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K09143

研究課題名(和文) 精神科急性期治療における再入院因子の検討

研究課題名(英文) Review of readmission factors in psychiatric acute care

研究代表者

山田 浩樹 (Hiroki, Yamada)

昭和大学・医学部・准教授

研究者番号：20384498

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究への参加に同意が得られた患者は90人であり、女性が多かった。90人の患者の診断別の内訳は、気分障害が最も多く33%を占め、次いで統合失調症が16%であった。まだ完全に調査が終了していない患者がいるが、精神科救急病棟退院後、再入院でのドロップアウトは22%であった。再入院した患者は、再入院しなかった患者よりも1日の睡眠時間が少ない傾向があったため、不眠の出現が再入院の予測因子になる可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神科救急病棟退院後の患者について、他院への通院患者も含めて追跡調査を行った研究は、おそらく本研究が初めてである。医療経済上も精神科救急病棟への早期の再入院はできる限り防ぐ必要があり、再入院のリスクを予測する因子の一つとして、睡眠時間の減少があることが示唆されたことは成果であると思われる。また、退院後の電話での追跡調査について、入院中に同意を得ることは難しいことが明らかになり、今後精神科救急病棟退院後の再入院防止のための仕組みについては電話以外の方法を考慮する必要があることも示唆された。データの解析は完全には終了していないため、本データからさらに知見が得られることも期待される。

研究成果の概要(英文)：Consent to participate in the study was obtained from 90 patients, most of whom were women; the 90 patients were broken down by diagnosis, with mood disorders accounting for the highest percentage of patients (33%), followed by schizophrenia (16%). Although some patients have not yet been fully surveyed, there was a 22% dropout at readmission after discharge from the psychiatric emergency ward. Patients who were readmitted tended to sleep less per day than those who were not readmitted, suggesting that the appearance of insomnia may be a predictor of readmission.

研究分野：臨床精神薬理学

キーワード：精神科救急

1. 研究開始当初の背景

精神科救急入院料算定病棟(スーパー救急病棟)は、高額な診療報酬が得られる反面、基準を遵守するあまり不十分な治療や処遇検討が十分行われないまま退院とせざるを得ないケースや、十分に医療資源を投入したにも関わらず、退院後すぐに再燃し、再入院となるケースも時々散見される。このような、いわば「回転ドア」現象は、治療上、さらには医療経済上も望ましくなく、容易に再燃し、再入院となる事を防ぐ方策が必要である。しかし、当院のように現状の精神科救急システムに参加していることの多いスーパー救急病棟には、かかりつけが他の病院であったり遠方に居住する患者も多いため、退院後当院に通院する患者以外の患者の生活や通院、治療状況、病状について追跡することは不可能である。そして、多様な患者が入院するスーパー救急病棟においては、治療方針について具体的な指針が定められているわけではなく、主治医の判断に委ねられているのが現状である。さらに、運用基準には、措置入院、時間外受診など実数による基準と、精神保健福祉法における入院時形態(任意入院、医療保護入院、措置入院、応急入院など)における非同意入院の比率、3ヶ月以内の自宅退院率など、比率による基準が存在する。このため、病院の運用方針や病棟担当医師の判断によって、運用の仕方には個別性があることが予想される。先述の「回転ドア」現象を、出来る限り少なくしていくためには、入院中、および退院後の経過を追跡し、どのような患者が、どのような治療を受け、さらに退院後どのような外来治療、日常生活を送っていったのかについての追跡調査が必要である。退院後を見据えた高品質の入院治療、再発、再入院防止を考慮した外来治療、生活指導を行っているかの指標としては、退院後の再入院率が出来る限り低く、長期間治療が継続されているかが重要である。そのためにはスーパー救急病棟を退院した患者を、当院かかりつけ以外の患者を含めて追跡することが必要である。これまでに、スーパー救急病棟における治療実態を報告した先行研究はいくつかみられるものの、スーパー救急病棟に入院した患者の再入院率や、退院後の治療継続率などについて十分に追跡した調査は現在のところ存在しない。

2. 研究の目的

本研究においては、昭和大学附属烏山病院および昭和大学横浜市北部病院のスーパー救急病棟を退院後、それぞれに通院する患者だけではなく、他病院に通院する患者に対しても電話にて治療状況、生活状況を追跡調査し、入院中に診療録より抽出した年齢、性別、診断、居住地、家族構成、生活状況、入院前治療状況、罹病期間、就学・就労状況、精神保健福祉法における入院時形態、社会資源の利用状況、在棟日数、罹病期間、入院回数、入院時・退院時処方と、退院後1、2、3、6、12ヶ月後の再入院の有無、治療継続状況、生活状況(就労、就学、同居家族、通所先、訪問サービスの利用状況、ライフイベントの有無)処方内容、内服状況、自覚される副作用、外来通院における現在の治療満足度について電話にて聴取する。これら入院中、退院後のデータをデータベースとして統合し、各因子の再入院率、治療中断率との関連を統計的に分析する。これによって、再入院や治療中断に影響する因子を検討することを目的とする。

3. 研究の方法

入院中に診療録より抽出した年齢、性別、診断、居住地、家族構成、生活状況、入院前治療状況、罹病期間、就学・就労状況、精神保健福祉法における入院時形態、社会資源の利用状況、在棟日数、罹病期間、入院回数、入院時・退院時処方と、退院後1、2、3、6、12ヶ月後の再入院の有無、治療継続状況、生活状況(就労、就学、同居家族、通所先、訪問サービスの利用状況、ライフイベントの有無)処方内容、内服状況、自覚される副作用、外来通院における現在の治療満足度を聴取後にデータベースとして統合し、各因子の再入院率、治療中断率との関連性を、統計ソフトを用いて統計的に分析する。スーパー救急病棟への再入院が原則的に難しい3ヶ月以内の再入院群、それ以降の再入院群、1年間再入院がなかった群の3群に分け、統計学的検討を行う。

4. 研究成果

本研究への参加に同意が得られた患者は90人であり、女性が多かった。90人の患者の診断名の内訳は、気分障害が最も多く33%を占め、次いで統合失調症が16%であった。まだ完全に調査を終了できていない患者が存在するが、スーパー救急病棟を退院後、再入院でのドロップアウトは22%であった。再入院した患者は、再入院しなかった患者と比べて1日の睡眠時間が短い傾向があったため、不眠の出現がスーパー救急病棟退院後の再入院の予測因子となる可能性が示唆された。

スーパー救急病棟退院後の患者について、他院への通院患者も含めて1年間、敵的に追跡調査を行った研究は、恐らく本研究が初めてである。医療経済上もスーパー救急病棟への早期の再入院は出来る限り防ぐ必要があり、再入院のリスクを予測する因子として、睡眠時間の減少がある

ことが示唆されたことは、一つの成果であると思われる。また、退院後の電話での追跡調査について、入院中に同意を得ることがかなり困難であり、偏りのある集団となってしまった可能性があるため、今後は退院後の調査の仕組みを構築するにあたり、電話以外の調査方法を考慮する必要があるかもしれない。データの追跡、解析はまだ完全には終了していないため、更なる知見が得られることも期待される。

学会発表

第 115 回 日本精神神経学会 (2019.6.20~6.22 新潟)

昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンターのスーパー救急病棟退院後調査

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山田 浩樹
2. 発表標題 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンターのスーパー救急病棟退院後調査
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	太田 晴久 (Haruhisa Ohta) (00439366)	昭和大学・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (32622)	